様式第３号

事務事業評価表（令和 3年度）

事業コード	232	課コード	0404	会計種別	一般会計	予算の種類	■政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業	手賀沼沿い農業者への支援	実施計画への位置づけ	● 有　○ 無
		個別事業	手賀沼沿い農地の保全活用と農業者支援	②部課名	環境経済部・農政課
	③事業主体	○市　●その他（ 農地活用計画者 ）		④対象地区	■我孫子　■天王台　□湖北　□新木　□布佐　□全市
	⑤事業期間	令和 2年度　～		⑥担当職員数	6 人　（換算人数　0.43 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）16,829 千円　（うち人件費　3,827 千円） （変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	22203	重点プロジェクトへの位置づけ	重点３
		基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）
(2)目的	施策目的・展開方向	手賀沼沿いの根戸新田地区、高野山新田・我孫子新田地区・岡発戸新田地区の農地について、観光振興施策や環境啓発施策、農業拠点施設におけるさまざまな事業との連携による活用を図るとともに、農地を耕作する農業者への支援を行い、手賀沼や斜面林等と一体となった豊かな自然環境を保全していきます。		事業目的	「あびこ型都市農業」の確立に向けたしくみづくりを先導的に推進し、我孫子らしさである自然環境に調和した農業を推進するため、手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用を図る事業者に対し、事業及び経費支援行うもの。
(3)事業内容	内　容	手賀沼沿い農地活用計画に位置付けられた地区の農地の活用を支援する。あわせて、農地条件の改良を支援する。		当該年度執行計画	手賀沼沿い農地活用計画をもとに以下の事業に対して支援を実施する。 １農地の積極的活用への支援　・景観作物栽培事業　・観光農園事業　・果樹栽培事業（４～３月） ２農地の保全・維持管理（農業経営の継続）への支援　・農用地等賃借事業　・農業経営基盤設備整備事業 ・農地保全事業　・用水・排水の維持管理事業（４～３月） ３手賀沼沿い農地排水維持補修対策事業（４月～３月）
				当該年度活動結果指標	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用面積　単位 ㎡　想定値 302,000　実績値

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	手賀沼沿い農地活用計画に基づいた農地活用を支援する	直接	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用面積	㎡	299,982	302,000
令和 4年度	手賀沼沿い農地活用計画に基づいた農地活用を支援している	直接	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用面積	㎡		305,000
令和 5年度	手賀沼沿い農地活用計画に基づいた農地活用を支援している	直接	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用面積	㎡		305,000

(7)事業実施上の課題と対応	代替案検討
手賀沼沿い地区にかかわる農家との調整が必要である。また、手賀沼沿い農地活用計画への農業者の理解が重要である。	○有　●無

(8)施行事項

	令和 2年度		令和 3年度			令和 4年度		令和 5年度	
	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
実施内容 費　用	手賀沼沿い農地活用計画支援事業		手賀沼沿い農地活用計画支援事業			手賀沼沿い農地活用計画支援事業		手賀沼沿い農地活用計画支援事業	
	消耗品費	53	消耗品費	67		消耗品費	67	消耗品費	67
	燃料費・光熱水費	62	燃料費・光熱水費	56		燃料費・光熱水費	56	燃料費・光熱水費	56
	農業用機械バロネス修繕料	185	農業用機械バロネス修繕料	185		農業用機械バロネス修繕料	185	農業用機械バロネス修繕料	185
	市民農園跡地施設修繕料	10	農作業用損害保険料	3		農作業用損害保険料	3	農作業用損害保険料	3
	農作業用損害保険料	4	手賀沼沿い農地活用支援補助金	12,368		手賀沼沿い農地活用支援補助金	12,368	手賀沼沿い農地活用支援補助金	12,368
	市民農園跡地浄化槽管理業務委託料	67	手賀沼沿い農地排水維持補修工事	300		手賀沼沿い農地排水維持補修工事	300	手賀沼沿い農地排水維持補修工事	300
	市民農園跡地トイレ清掃委託料	286	千葉県土地改良特別賦課金	23					
	樹木管理委託料	273							
	ゲートスポット草刈業務委託料	146							
	市民農園跡地管理業務委託料	1,867							
	ゲートスポット借地料	1,370							
	積算システム保守・システム使用料	423							
	千葉県土地改良事業団体連合会賦課金	28							
	市民農園跡地土地賃借料	1,224							
	手賀沼沿い農地活用支援補助金	14,146							
	水生植物園管理業務委託料	2,250							
	水生植物園土地賃借料	125							
	＊ 用排水施設等整備工事（根戸新田）繰越	31,500							
	＊ 手賀沼沿い農地排水維持補修工事	300							
予算(決算)額	合　計	54,319	合　計	13,002		合　計	12,979	合　計	12,979
(9)財源内訳 国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0		補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 50 %	11,775	補助率 0 %	0		補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 75 %	11,400	充当率 0 %	0		充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		31,139		13,002			12,979		12,979
その他の財源	□特会 ■受益 □基金 □その他	5	□特会 □受益 □基金 □その他	0		□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等 換算人数(人)		1.17		0.43			0.77		0.77
正職員人件費		10,179		3,827			6,853		6,853
嘱託職員報酬額		0		0			0		0
臨時職員賃金額		0		0			0		0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)		64,498		16,829			19,832		19,832
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）		0.21千円／㎡		0.06千円／㎡					

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	手賀沼沿い農地活用計画は、農業者が主体的に農地活用に取組み、そこに都市住民が参画することにより農を共有し、都市と農業が共生するなかで、新たな農業形態を構築するものである。計画実現のためには先ず、農業者が農地活用に取り組める環境を整えることが大切であり、この農地活用へのきっかけや動機づくりとして事業支援と事業費支援は不可欠なものである。特に農地活用に当たっての事業費支援は、経営面での安心感がもたらす新たな取組みへの動機や意欲が見込めることから、手賀沼沿い農地活用計画を推進する上でで効果的な施策である。	○①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞	○要 ○不要
(2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）■市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される ■市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ ＜その他の内容＞	○要 ○不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容：●①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：計画策定時から各地区で農家懇談会を開催している。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容） 参加・協働の程度・内容：○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ○不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点：■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している ■④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：・農地保全活動 ・景観作物の栽培	実施した具体的な内容 環境への配慮：○①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ○ 不要
効率性 (1)目標設定は適切か？	現況値(a)(㎡) 299,982 目標値(b)(㎡) 302,000 目標値の妥当性のチェック：■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況：実績値(f)(㎡)　達成率(%)(f/b×100) ○①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞	○要 ○不要
(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円) 16,829　事業費削減額(d)(千円) 47,669 事業費削減率(%) 73.91 実施予定の対策：■①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託 ＜削減の内容＞	実施状況：実績値(g)(千円)　対事業費(%)(g/c)×100 ○①想定事業費未満 ○②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 事業費の削減対策について：○①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ○不要
(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e) 1,794.52 ㎡　単位　費用単位 10万円 計算方法：●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：（目標値－現況値）×費用単位／事業費	達成状況：実績値(h)　対目標値(%)(h/e)×100 ○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞	○要 ○不要

３．事後評価

○現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向